

# 北海道教育大学の環境配慮の取組みの状況

- 環境報告書 2005 -



# 目次

## 学長メッセージ

### エコキャンパスの実現を目指して

1	環境方針	1
2	大学の概要	2
	(1) 本学の配置図	2
	(2) 職員・学生数(2006年5月1日現在)	2
	(3) 大学組織(2006年5月1日現在)	3
3	環境保全計画	4
	(1) 達成目標	4
	(2) 達成度評価	5
4	環境保全体制	7
5	環境保全への取組み状況	8
	(1) エネルギーの有効活用と節約の推進	8
	(2) 水の有効利用と排水浄化の推進	9
	(3) 資源の有効利用とリサイクルの推進	9
	(4) 学内緑化の推進とグリーン購入の徹底	10
	(5) 環境汚染物質の管理と排出等について	12
	法令に基づくアスベスト対策と管理の現状	12
	法令に基づく上下水の検査と管理の現状	13
	有害化学物質の適正管理と廃棄の現状	14
	作業環境の測定	14
	分煙対策	15
	一般固定廃棄物の管理と排出状況	15
	放置自転車の処分	16
6	環境教育活動の取組み	17
	(1) 学部における環境関連科目の開設状況	17
	(2) 附属学校・園における環境教育	19
	(3) 地域貢献(社会貢献)	20
	・ 教員の社会貢献	20
	・ 大会等の開催	23
	・ 高校生への出前講義	23
7	学生の環境保全活動の状況	24

## まとめ

## 学長メッセージ

### エコキャンパスの実現を目指して

平成17年4月に施行されたいわゆる「環境配慮促進法」において、国立大学法人など特定法人に対しても年度毎の「環境報告書」の作成・公表が義務化されることになりました。環境報告書には環境配慮についての方針および事業活動に係る目標とその目標を達成するために行う取り組みを記載することになっております。

これを受けて本学では環境保全推進本部を設置しエコキャンパスの実現に向けた学内体制の整備と今後に向けた事業活動の検討を進めてまいりました。

最初の環境報告書（本報告書）の公表に当たっては、本学の環境配慮に関する方針および環境配慮に関する取り組みの現状を明示し、教職員や学生をはじめ大学に関係する全ての人たちの環境保全意識の向上に役立てたいと考えています。

現在、平成18年度行動計画を策定、実行しているところですが、教育大学という本学の特色を生かした環境教育への取り組みを重点的に推進する方針であります。すなわち環境教育を現代的教育課題として捉え、大学や附属学校における環境カリキュラムの開発と環境教育の実施、さらには環境教育を通じた地域貢献等を学生も巻き込みながら推進して参りたいと考えております。

本学では「地域環境教育課程」（札幌、旭川、釧路）を中心に、環境に関わる多様な内容の講義が開講されています。これらの環境関連科目は、平成18年度の再編以降、新しい教育課程（環境科学専攻、総合学習開発専攻、地域教育開発専攻など）の中で発展的に継承されていきますが、環境問題を様々な視点とスケールで考える人材の育成もまた本学に課せられた重要な使命であると考えます。

北海道教育大学における環境マネジメントは始まったばかりです。環境配慮に関する社会的要求が増大する今を好機として捉え、ゆっくりではありますが、着実に歩みを進めていけるように全構成員の積極的な参画を期待します。



北海道教育大学長  
村山 紀昭

平成18年9月

## 1 環境方針

本学の使命は、北海道の歴史と風土に根ざしつつ、教師をはじめ地域のための優れた人材を養成し、さらに、教育、研究および社会貢献活動を通じて、社会の発展と人類福祉の向上に貢献することです。この使命に相応しい大学環境を構築し、環境に関わる世代間の平等を尊重する社会人の育成に努めます。

### 基本方針

本学の基本理念に基づき、各キャンパス内の全ての教職員及び学生等の協力のもとに、以下の活動を積極的に推進します。

- 1：本学の特色である文系と理系の知恵を集積し、また附属学校や近隣の学校と連携し、北海道教育大学としての特長を活かした環境教育と研究の実践を進めます。研究成果の普及により、地域環境および地球環境の改善に努めます。
- 2：教職員および学生等全体で快適な学内環境の構築に努めます。学生の主体的な参加によって実施するために、学生による自主的な環境活動を推奨し、多様な環境プログラムが実施されるキャンパスを目指します。  
このことにより、環境改善に資する能力を持った人材育成に努めます。
- 3：省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化および化学物質の適正管理などにより、汚染の予防と継続的な環境改善を行います。これらにより環境負荷の少ない快適なキャンパスを実現します。
- 4：本学に適用される環境関連の法令および本学が決めた事項を守ります。

## 2 大学の概要

### (1) 本学配置図



### (2) 職員・学生数(2006年5月1日現在)

大学名：国立大学法人北海道教育大学

所在地：札幌校・事務局 北海道札幌市 函館校 北海道函館市  
旭川校 北海道旭川市 釧路校 北海道釧路市  
岩見沢校 北海道岩見沢市

学長名：村山紀昭（平成16年4月1日～平成17年8月26日）

（平成17年8月27日～平成19年8月26日）

理事数：4人 副理事数：1人 監事数：2人（非常勤）

学部等の構成：教育学部、教育学研究科、特殊教育特別専攻科、養護教諭特別別科、附属小学校、  
附属中学校、附属養護学校、附属幼稚園

学生数及び教職員数（ ）内の数字は、外国人留学生を内数で示す。

学生数：学部 5,434人（13人） 学生数：研究科 397人（19人）

学生数：特殊教育特別専攻科 11人 学生数：養護教諭特別別科 37人

学生数計：5,879人（32人）

児童数：附属小学校 1,880人 生徒数：附属中学校 1,459人

生徒数：附属養護学校 58人 園児数：附属幼稚園 163人

児童・生徒・園児数計：3,560人

教員数：大学 411人 教員数：附属小学校 68人

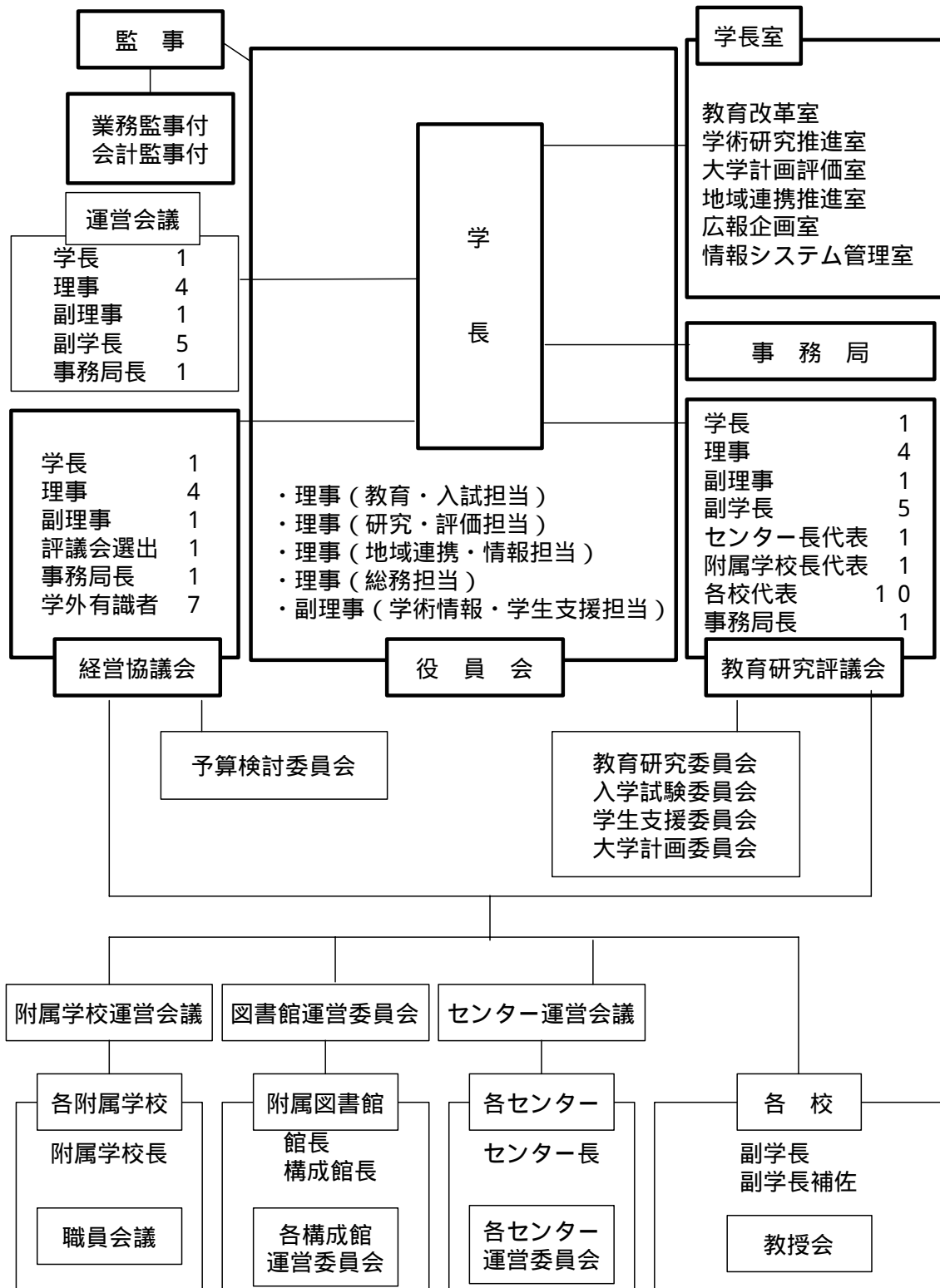
教員数：附属中学校 69人 教員数：附属養護学校 30人

教員数：附属幼稚園 9人 職員数：223人

教職員数計：810人

(3) 大学組織(2006年5月1日現在)

業務運営体制図



### 3 環境保全計画

北海道教育大学では、年度目標・計画等に基づき、環境保全活動を行っています。

#### (1) 達成目標

項目	対象	目標	適用法令等
エネルギーの有効活用と節約の推進	電気使用量 ガス使用量 上・下水道使用量 省エネへの啓発(シール等)	計画期間 6 年間において、前年度比 1%減する。	エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネ法)
資源の有効利用とリサイクルの推進	新聞紙	リサイクルを実施する。	資源の有効な利用の促進に関する法律
	トナー	リサイクルトナーを利用する。	
	廃棄物の分別・排出量 可燃物・紙類 ビン・カン ペットボトル 不燃物類(発泡スチロール)	分別収集，リサイクルを実施する。	
グリーン購入，調達状況		グリーン購入 100%達成する。	国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律
環境汚染の防止	有害物質の適正管理と廃棄の現状	法律に基づいた適正な管理と廃棄を行う。	下水道法 特定化学物出の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律(P R T R法)
	作業環境の測定	適正な環境を図る。	労働安全法
	PCB	2016 年までに処理する。	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(P C B 特別措置法)
	排水	排水基準値を遵守する。	下水道法，大気汚染防止法
	アスベスト除去	含有率検査で 1%以上の建物は 2005・2006 年度で除去する。1%未満の建物については空気検査を行う。	

環境教育活動の取組み	環境教育関連科目の開設 附属学校・園における環境教育 地域貢献(社会貢献) 教員の社会貢献 高校生への出前講義	一層の環境教育活動への取り組みを推進する。	
学内美化	キャンパスクリーン	学内清掃を実施する。	
	放置自転車	放置自転車を0にする。	
	分煙	学内分煙を推進する。	健康増進法
	緑化	緑化を推進する。	
学生の自主的な活動		支援体制を構築する。	

(2) 達成度評価(2005年度(平成17年度)は次の取り組みを行い、達成度は次のとおりです。)

項目	対象	実施したこと	自己評価
エネルギーの有効活用と節約の推進	電気使用量	省エネのシールなどの啓発を行い、前年度比1%減した。	
	ガス使用量		
	上・下水道使用量		
	省エネへの啓発(シール等)	省エネのシールなどの啓発を実施した。	
資源の有効利用とリサイクルの推進	新聞紙	リサイクルを実施した。	
	トナー	リサイクルトナーを利用した。	
	廃棄物の分別・排出量 可燃物 紙類 ビン・カン ペットボトル 不燃物類(発泡スチロール)	分別収集, リサイクルを実施した。	
	グリーン購入, 調達状況	グリーン購入100%達成した。	
環境汚染の防止	有害物質の適正管理と廃棄の現状	法律に基づいた適正な管理と廃棄を行った。	
	作業環境の測定	適正な環境を図った。	



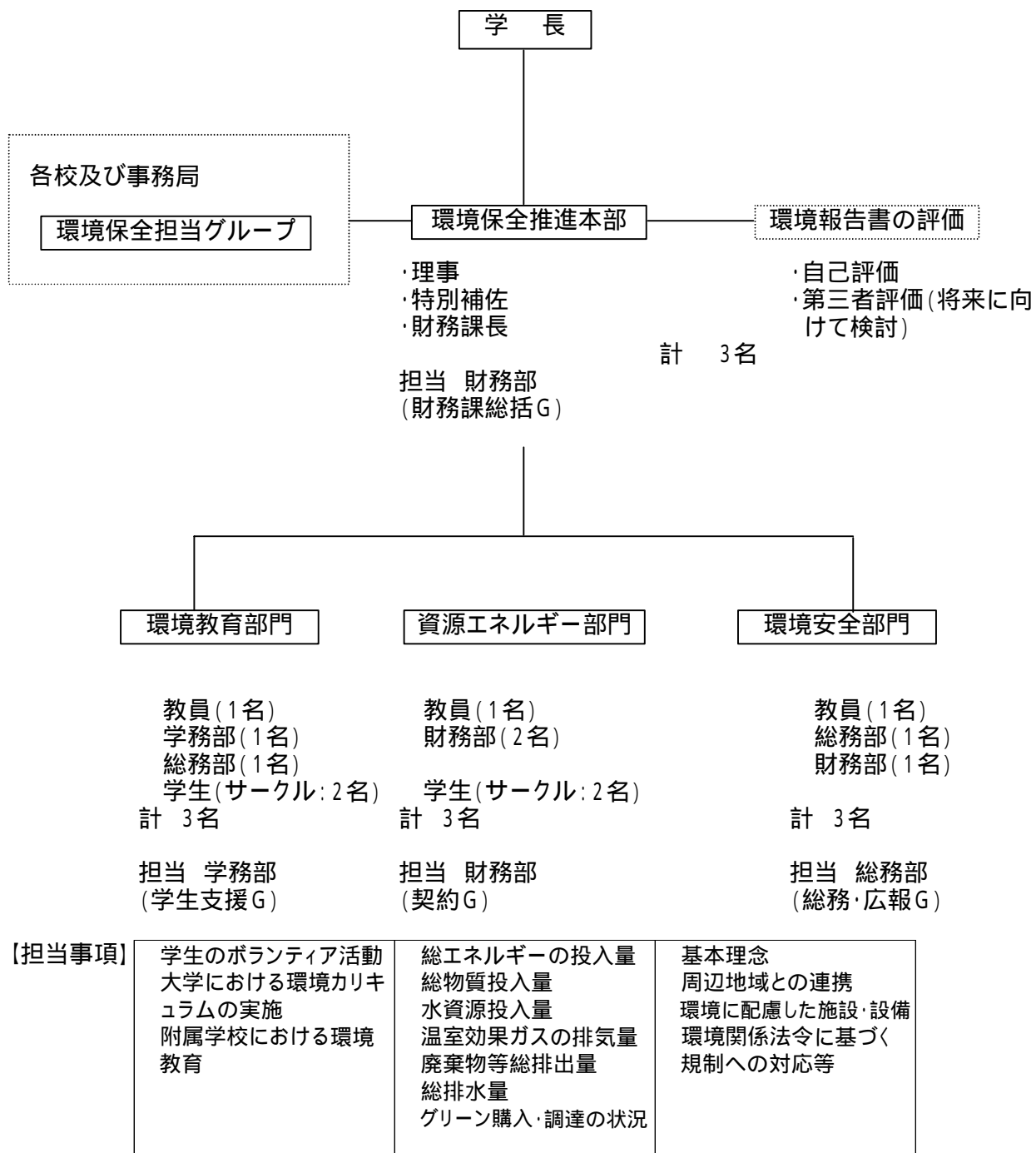
	PCB	適正に管理するとともに，2016 年までに処理する予定。	-
	排水	排水基準値を遵守した。	
	アスベスト除去	含有率検査で 1%以上の建物は 2005・2006 年度で除去する。	
環境教育活動の取組み	環境教育関連科目の開設	環境教育活動への取り組みを推進するため，シラバスの見直しを行った。	
	附属学校・園における環境教育	附属学校における環境教育活動への取り組みを推進した。	
	地域貢献(社会貢献) 教員の社会貢献 高校生への出前講義	環境教育活動への取り組みを行った。	
学内美化	キャンパスクリーン	年 2 回の環境美化を行った。	
	放置自転車	毎年，放置自転車を処分しているものの，0 までには到達しなかった。	
	分煙	大学は分煙場所を指定し，環境に配慮した。 附属学校・園は敷地内を禁煙とした。	
	緑化	計画的に緑化を行った。(植樹，花壇の整備等)	
学生の自主的な活動		学生のサークルが，地域ボランティアで環境活動を行った。	

#### 自己評価の指標

- ...目標を達成できた計画
- ...おおむね目標を達成した計画
- ...目標の半分を達成している計画
- ×...目標を達成できなかった計画

## 4 環境保全体制

### 環境保全推進実施体制



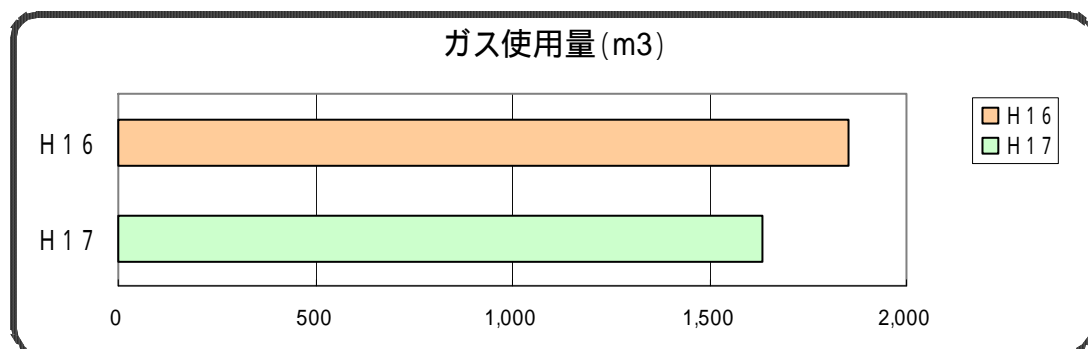
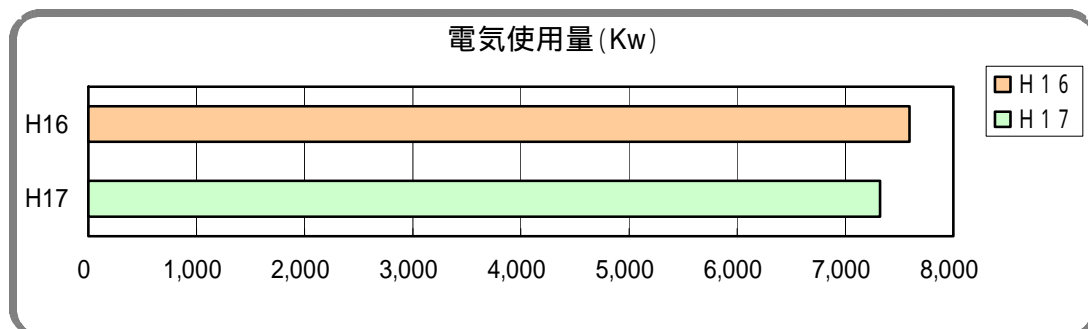
## 5 環境保全への取組み状況

### (1) エネルギーの有効活用と節約の推進

近年の省エネ指向も手伝って、大部分の教職員および学生はエネルギーの有効利用を意識しながら行動している。エネルギーの消費は気候にも左右されるが、単純なエネルギー節約には、限界が生じつつある。今後は、調査に基づき快適な環境を確保しながら省エネを図って行く必要がある。

本学においても主要な消費エネルギーは電気と暖房用の重油である。これらの消費は気候によって大きく変化し、正確な消費計画を立てづらくしている。気候 - 建物 - 暖房 - 対応の関係を把握して省エネを図って行く必要がある。

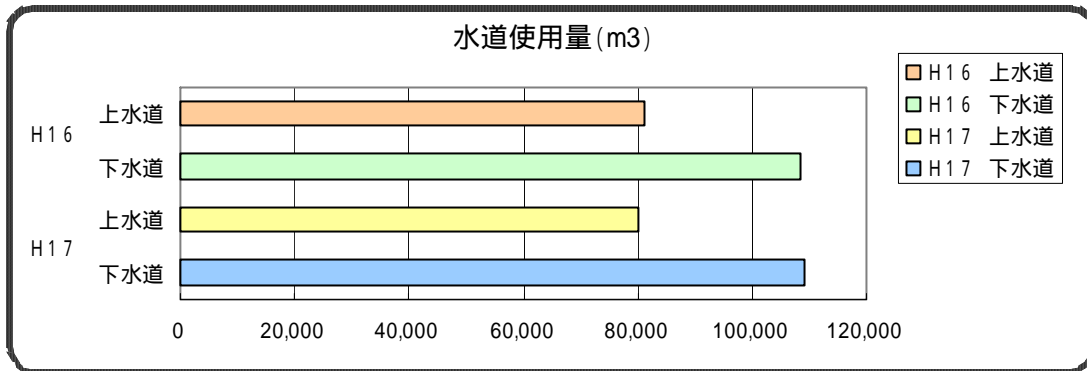
一方において、電気製品の待機電力に関する認識が十分とはいえない。また、「電気の消し忘れ」、冬期の「無駄なドアの開放」を防ぐ啓発の工夫が不足している。省エネ意識をより高めるためにステッカーの貼付を行っているものの、よりインパクトのあるステッカー等の作成・提示を行っていく必要がある。



## (2) 水の有効利用と排水浄化の推進

16, 17 年度における水の使用量に変化は見られない。上水量に対して下水量が多いのは、飲料用以外の水に地下水を利用しているキャンパスが2カ所あるためである。

実際の使用量は、下水量相当である。今後、この量に対して、削減目標を設定して節水に取り組む必要がある。



### 節水対策

水道・手洗い場には節水のステッカーを貼り、注意を促している。近年、節水器具の開発、普及はめざましく、効果も確認されているものが多い。対費用との関係を考慮して節水タイプへの切り替えを検討していく。

## (3) 資源の有効利用とリサイクルの推進

資源の有効利用とリサイクルは国民的課題である。本学においてもゴミは資源とされ分別収集が定着しつつある。しかし、分別収集が不十分なため、リサイクルできない場合も少なくない。

### 資源の分別収集

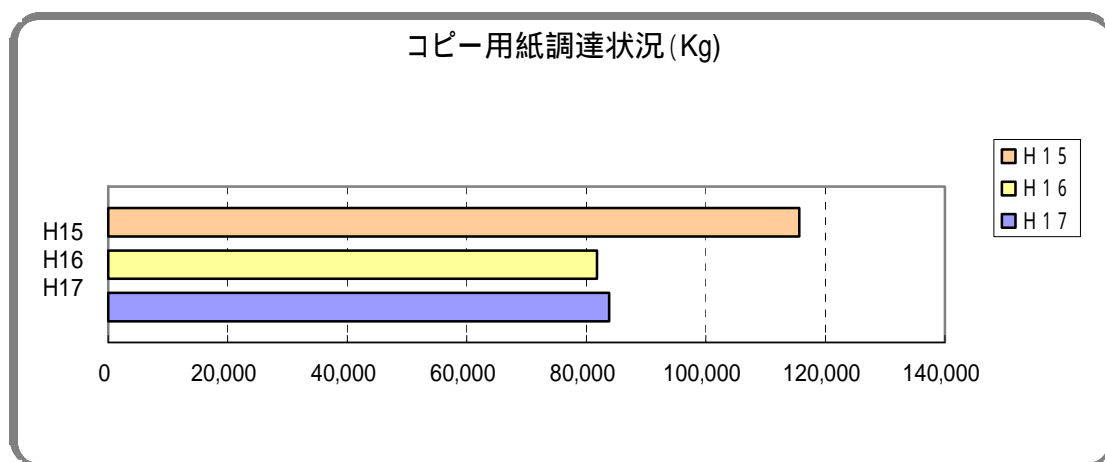
効率的な分別収集は、収集法によっても異なる。キャンパスによって、また同じキャンパスでも場所によって収集法が異なる場合がある。視覚を活用したカートは有効性が確認され、今後、順次取り入れていく。



## 印刷（コピー）用紙の消費

印刷およびコピーは、両面使用が一般的となっているが、それらに見合った消費量の減少に至っていない。印刷およびコピーを行わない情報提示方法の工夫が求められる。

また、パソコンによる情報の伝達、保存はペーパーレスを期待させたが、紙の消費減にあまり結びついていない。ペーパーレスを考慮した情報端末の利活用に関する模索・提示が必要である。



本学の紙の消費量 (Kg)

## (4) 学内緑化の推進とグリーン購入の徹底

従来からキャンパスの緑地を保全し、計画的に緑化を推進してきた。僅かであっても、CO<sub>2</sub>削減につながる植樹を進める必要がある。

備品・消耗品の購入に当たっては、特別な場合を除き、グリーンマーク商品を優先的に購入してきたが、今後もこの方針を堅持してゆく。

### 学内緑化推進

一つ一つのキャンパスは、広いとはいえないが、5つのキャンパスを統合すると1,144,382m<sup>2</sup>となる。植樹が可能な場所も少なくない。場所と気候にあった樹木の植樹を検討していきたい。



### 【札幌キャンパス】

附属札幌小学校では、5月27日に、「北海道千本桜運動」(北海道新聞社、北海道文化放送等主催)に応募し、「エゾヤマザクラ」30本の寄贈を受けて植樹祭を行った。背丈が2m弱の30本の苗木は、校舎と平行に桜並木として、また、正門から校舎までの遊歩道脇に植えられた。



### グリーン商品の購入

この3年間、グリーン商品購入目標に対して100%の購入を実現してきている。引き続き100%購入に努める。また、環境物品を選ぶ際に、次のような環境ラベルを参考にして購入しています。



#### 【エコマーク】

環境保全に資する商品を認定して表示するマーク



#### 【グリーンマーク】

原料に古紙を規定の割合以上利用していることを表示するマーク



#### 【PETボトルリサイクル推奨マーク】

PETボトルをリサイクルした商品につけられるマーク



#### 【国際エネルギースタープログラム】

パソコンなどのオフィス機器について、待機時の消費電力に関する基準を満たす商品につけられるマーク



#### 【再生紙使用マーク】

古紙配合率を示す自主的マーク

## (5) 環境汚染物質の管理と排出等について

### 1. 法令に基づくアスベスト対策と管理の現状

【札幌】

アスベスト使用建物名	検査時期	検査結果	環境対策の方法	対策時期	対策及び管理状況
札幌校研究棟	2005 9-11月	含有率5% 飛散なし	アスベストの除去	2006 8-9月	対策予定
札幌校講義棟	2005 9-11月	含有率4.4% 飛散なし	アスベストの除去	2006 8-9月	対策予定
北光住宅(506棟)	2005 9-11月	含有率1.5% 飛散なし	アスベストの除去	2006 7-11月	対策予定
札幌校芸術棟	2005 9-11月	含有率0.9% 空気は未検査	空気検査の結果に もとづく	2006空気検査 8-9月	空気検査予定

【函館】

アスベスト使用建物名	検査時期	検査結果	環境対策の方法	対策時期	対策及び管理状況
函館校ボイラー室	2005 9-11月	含有率10% 飛散なし	アスベストの除去	2006 9-10月	対策予定
附属養護学校校舎	2005 9-11月	含有率0.5%未満 空気は未検査	空気検査の結果に もとづく	2006空気検査 8-9月	空気検査予定
花園住宅(504棟)	2005 9-11月	含有率0.5%未満 空気は未検査	空気検査の結果に もとづく	2006空気検査 8-9月	空気検査予定

【旭川】

アスベスト使用建物名	検査時期	検査結果	環境対策の方法	対策時期	対策及び管理状況
旭川校自然科学棟	2005 9-11月	含有率1.4% 飛散なし	アスベストの除去	2006,2007 8-9月,3月	対策予定
旭川校教育科学棟	2005 9-11月	含有率7.9% 飛散なし	アスベストの除去	2006 3-4月	対策済み 管理良好
旭川校福利厚生施設	2005 9-11月	含有率6.2% 飛散なし	アスベストの除去	2006 3-4月	対策済み 管理良好
附属幼稚園	2005 9-11月	含有率3.5% 飛散なし	アスベストの除去	2006 3-4月	対策済み 管理良好

【釧路】

アスベスト使用建物名	検査時期	検査結果	環境対策の方法	対策時期	対策及び管理状況
鶴ヶ岱寮(学生寮)	2005 9-11月	含有率4.4% 飛散なし	アスベストの除去	2006 3-4月,8-9月	対策予定
釧路校幼児教育棟	2005 9-11月	含有率0.5%未満 空気は未検査	空気検査の結果に もとづく	2006空気検査 8-9月	空気検査予定

【岩見沢】

アスベスト使用建物名	検査時期	検査結果	環境対策の方法	対策時期	対策及び管理状況
清明寮(学生寮)	2005 9-11月	含有率0.5%未満 空気は未検査	空気検査の結果に もとづく	2006空気検査 8-9月	空気検査予定
希望寮(学生寮)	2005 9-11月	含有率0.5%未満 空気は未検査	空気検査の結果に もとづく	2006空気検査 8-9月	空気検査予定

法令に基づく上下水の検査と管理の現状

	区分	検査と管理の現状			
		測定箇所	測定内容	検査時期	測定結果
札幌	上水道	管理棟	水質検査	年2回	適合
		北香寮	水質検査	年1回	適合
	下水道	管理棟	水質検査	年12回	適合
		福利棟	水質検査	年12回	適合
函館	上水道	貯水槽	衛生状況	年2回	適合
			清掃後の水質	年2回	適合
	下水道	理科棟及び厚生会館の公共下水道	排水測定	年2回	適合
旭川	上水道(井水)	貯水槽	衛生状況	年1回	適合
			清掃後の水質	年1回	適合
		給水施設 福利厚生施設	水質検査	月1回	適合
	下水道	最終放流口	排水測定 pH値	年1回 週1回	適合
釧路	上水道	大学、附属小中学校、学生寮の各貯水槽	衛生状況	年1回	適合
			清掃後の水質	年1回	適合
岩見沢	上水道	ボイラー室貯水槽	衛生状況	年1回	適合
			水質調査	年2回	適合
	上水道	男子寮貯水槽	衛生状況	年1回	適合
			水質調査	年2回	適合
	上水道	女子寮貯水槽	衛生状況	年1回	適合
			水質調査	年2回	適合



## 有害化学物質の適正管理と廃棄の現状

### 【札幌】

有害物質および物品名	保管・管理の方法	管理記録の有無	処理および管理責任者
各種化学薬品類(廃液)	専用容器内に分別して保管	実験廃液等回収受払簿	指定業者に処理を依頼
PCB使用蛍光灯安定器	専用容器内に分別して保管	保管及び処分状況等届出書	特別管理産業廃棄物管理責任者

### 【函館】

有害物質および物品名	保管・管理の方法	管理記録の有無	処理および管理責任者
各種化学薬品類	専用容器内に分別して保管	廃棄薬品管理簿	指定業者に処理を依頼
PCB使用大型コンデンサー及び安定器	廃棄管理物品として厳重に保管	PCB使用電気機器管理台帳	特別管理産業廃棄物管理責任者

### 【旭川】

有害物質および物品名	保管・管理の方法	管理記録の有無	処理および管理責任者
各種化学薬品類	容器保管	処分時の一覧表 各教員でリスト保持	特別管理産業廃棄物管理責任者 指定業者に処理を依頼
PCB使用コンデンサー・安定器	廃棄管理物品として厳重に保管	一覧表有り	特別管理産業廃棄物管理責任者
PCB使用大型コンデンサー	廃棄管理物品として厳重に保管	一覧表有り	特別管理産業廃棄物管理責任者 早期処分登録済

### 【釧路】

有害物質および物品名	保管・管理の方法	管理記録の有無	処理および管理責任者
各種化学薬品類	専用容器内に分別して保管	廃棄薬品管理簿	指定業者に処理を依頼
PCB使用高圧コンデンサー及び蛍光灯安定器	廃棄管理物品として厳重に保管	PCB使用電気機器管理台帳	特別管理産業廃棄物管理責任者

### 【岩見沢】

有害物質および物品名	保管・管理の方法	管理記録の有無	処理および管理責任者
PCB使用蛍光灯安定機	プラスチック容器で保管	保管管理状況自主点検報告書により記録	特別管理産業廃棄物管理責任者
各種化学薬品類	専用容器内に分別して保管	なし	指定業者に処理を依頼

## 作業環境の測定

	対象場所	測定調査の時期	測定調査の結果
札幌	化学物質を使用している場所	2005年12月	適合
函館	化学物質を使用している場所(使用者なし)	-	-
旭川	化学物質を使用している場所(使用者なし)	-	-
釧路	化学物質を使用している場所	使用量が少ないため、測定が必要なし	-
岩見沢	化学物質を使用している場所	使用量が少ないため、測定が必要なし	-

## 分煙対策

	対策場所	対策の時期	対策の方法
札幌	事務局 1F	2004年	分煙室の設置
	札幌校管理棟 2F	2004年	
	講義棟 2F	2004年	
	研究棟 2F	2004年	
函館	事務室	2005年	
	1階学生ホール	2005年	
	福利厚生会館 2階ホール	2005年	
旭川	学生ホール	2004年	
	福利厚生施設 2F	2004年	
釧路	管理棟 2F	2004年	
	研究棟 1F	2004年	
	福利厚生施設	2004年	
岩見沢	研究実験棟 1F	2004年	
	芸術管理棟 1F	2002年	

1. 北海道教育大学では、喫煙場所を定め、それ以外の場所では禁煙としています。
2. 全ての附属学校・園では、敷地内を禁煙としています。
3. 保健管理センターでは、「無煙化5ヵ年計画」に基づき禁煙支援を行っています。

## 一般固形廃棄物の管理と排出状況

【札幌】

固形廃棄物分別区分	廃棄量(単位)	処分方法
燃えるゴミ	234 m3	廃棄物処理業者に委託
燃えないゴミ	0 m3	
資源ゴミ	503.3 m3	
粗大ゴミ	36.4 m3	

【函館】

固形廃棄物分別区分	廃棄量(単位)	処分方法
燃えるゴミ	790.9 m3	廃棄物処理業者に委託
燃えないゴミ	140.8 m3	
資源ゴミ	214.5 m3	
粗大ゴミ	226.3 m3	

【旭川】

固形廃棄物分別区分	廃棄量(単位)	処分方法
燃えるゴミ	186.9 m3	廃棄物処理業者に委託
燃えないゴミ	347.9 m3	
資源ゴミ	16.5 m3	
粗大ゴミ	3,940 kg	

【釧路】

固形廃棄物分別区分	廃棄量(単位)	処分方法
燃えるゴミ	30,830 kg	廃棄物処理業者に委託
燃えないゴミ	3,540 kg	
資源ゴミ	10,890 kg	
粗大ゴミ	0 m3	

【岩見沢】

固形廃棄物分別区分	廃棄量(単位)	処分方法
燃えるゴミ	157.6 m3	廃棄物処理業者に委託
燃えないゴミ	118.7 m3	
資源ゴミ	0.0 m3	
粗大ゴミ	74 m3	

放置自転車の処分

	処分量	処分方法
札幌	102台	産業廃棄物(金属くず、廃プラスチック類)として廃棄物処理業者に引き渡し  粗大ゴミとして廃棄物処理業者に引き渡し
函館	約70台	
旭川	71台	
釧路	60台	
岩見沢	約40台	

## 6 環境教育活動の取組み

### (1) 学部における環境関連科目の開設状況

環境に関連する科目の開設状況をキャンパス毎に調査し、今後のカリキュラム編成および科目内容整備のための基礎資料とします。

#### 【本学の平成 17 年度における環境に関連する開講科目】

学部等名	科目名	授業担当者	科目名	授業担当者
札幌校	環境教育論	*横山	環境地質学	近藤
	環境倫理学	嶋崎	環境物理学演習	平野
	環境地理学	山下	環境物理学特講	平野
	環境経済学	濱地	環境計測科学実験	菅
	健康環境論	佐々木	環境情報科学	菅
	健康と環境	内山	地球環境化学演習	菅
	環境物理学	平野	環境計測科学演習	菅
	地球環境化学	田中俊逸	環境情報科学演習	菅
	環境生物学	並川	環境生物学実験	並川
	環境教育論	住田	環境生物学実習	並川
	環境と法	加藤峰夫	環境生物学演習	並川
	環境地理学	山下	環境統計学演習	櫻田
	環境情報処理	菅	環境数理科学	櫻田
	環境マネジメント	江本	環境数理科学演習	櫻田
	環境教育発展実習	森田	環境医学論	佐々木
	環境計測科学	菅	環境農学	佐藤肇
	企業活動と環境	森田	洗浄科学と環境	森田
	環境生物学実習	渡部	生活環境科学演習	森田, 佐々木
	生活環境科学実験実習	森田	物質環境科学演習	森田
	生活環境科学実験実習	佐藤肇, 佐々木	環境農学実習	佐藤肇
	物質環境科学実験	森田	環境機械	三谷
	環境農学実習	佐藤肇	地域環境保健論	佐々木
	物質環境科学実験	森田	環境生理学	佐々木
環境農学実習	佐藤肇	環境地理学演習	山下	
函館校	環境教育入門	尾崎・大江他	環境変遷史	紀藤

	環境教育論	田中邦		
旭川校	環境科学概論	*片山	環境地球科学	和田
	環境教育論	*出羽	基礎環境科学実験	松田
	環境エネルギー論	西川	北方圏自然環境科学	平川
	教育環境組織論	古野	環境情報演習	和田，小黒
	日常の環境科学	矢沢	環境地学実験	和田
	環境科学実習	和田	環境化学演習	松田
	環境物理学	小黒	環境地学演習	和田
	環境化学	松田	環境科学特講	地徳
	環境生物学	並川		
釧路校	環境と文化	篠木・浅利	地域環境学総論	平山，田丸， 小松
	産業技術環境論	田丸		
	地球環境論	*小林	自然環境教材論	三崎
	道東自然環境論	神田	自然環境実験	生方
	幼児環境指導法	今泉	自然環境教育基礎	鈴木，酒井， 中川
	環境農学	田丸		
	環境植物学特論	神田	地球環境変動論	伊藤
	環境分析化学	片岡	生産環境演習（環境と情 報）	廣重
	生産環境演習（環境と農 業）	田丸		
	生産環境演習（環境とエ ネルギー）	松浦	生活環境演習	村上，鎌田
			文化環境演習	石井
人間環境演習	村上，長澤	環境教育論	*小島	
岩見沢校	地域環境学演習	武田	住と環境の科学	中村
	地域環境学研究法	武田	地域環境学特講	小嶋
	森林・緑地政策論	*丸山	地域環境政策論	武田
	古環境論	鈴木		

「\*」印は，非常勤講師を表します。

「地域環境教育課程」（札幌，旭川，釧路）および「生涯教育課程」を中心に，環境に関わる多様な内容の講義が開講されています。これらの環境関連科目は，平成18年度の再編以降，新しい教育課程の中で継続あるいは名称の異なる科目へと発展的に吸収されています。

## (2) 附属学校・園における環境教育

附属学校・園における環境教育の実施状況と大学教員の関わりについて調査し、その実態を示します。

### 【過去3年間における附属学校・園における環境教育の実践一覧】

学校名	取り組みの内容
附属札幌小学校	環境教育の実践例として 4年総合学習：茨戸川で活動しよう。3年総合学習：緑道たんけんたい。4～6年総合学習：リングブルを集めよう。1年生活科：いきものとなかよし
附属札幌中学校	理科の授業において「自然と人間～生物どうしのつながり」「ごみ問題 ごみを減らすにはどうしたらいいのだろうか～リサイクルの有用性」「生ごみの再利用と産業廃棄物の処理」「廃油の再資源化とゴミの減量」を題材として扱っており、これらの授業の中で実際に資源ゴミをリサイクル実験、廃油から石鹸やロウソクを作る実験を行っています。 附属札幌中学校特殊学級（ふじのめ学級）における環境教育として、食糧生産と環境保全を理解するため『「バケツスイカ」を題材にした「総合的な学習の時間」』を実践しています。ここで、大学教員と大学生によるふじのめ学級生徒への指導と、これを題材とした卒業研究の教育実践の部分で大学生に対する附属学校教員による指導の協力が行われています。
附属函館小学校	3年生以上の学年を中心として、総合的な学習の時間、理科、社会及び家庭科などの時間単元の学習内容に応じて指導しています。
附属函館中学校	1年生について環境学習への意識を高め、ゴミ問題、リサイクルについての学習を積極的に行う旨の指導計画を策定、全学年を通し、ボランティア活動（ゴミ拾い等）を実施し、地域貢献に努めています。
附属養護学校	中学部作業学習において、作業内容の一つとして、牛乳パックを再利用し紙すき和紙づくりのリサイクル活動を行っています。
附属函館幼稚園	昼食後に園児へゴミの分別の指導を行っています。
附属旭川小学校	3年総合「旭川にはどんな川が」、4年総合「めざせエコロジー名人」等での川や水の環境からの学習、5年総合「僕たちの水田でお米づくりにチャレンジ」における無農薬稲作栽培体験を通じた環境にかかわる学習、5年社会「住みよいくらしと環境」他、全学級で行っている学級園での栽培活動等で体験活動を重視して多面的な取り組みを行っています。
附属旭川中学校	保健体育の保健分野の授業において、水質検査や空気の汚れの検査等を行い、学校内の水や空気の汚れを実感させ、対応策などを考えさせている。総合的な学習の時間に環境に関するコースを設置し、近隣の河川に出かけて水質検査を行い、地域の環境について考える契機としています。
附属釧路小学校	小学校では身のまわりにあるひと、もの、こととのかかわり特に直接体験を大切に具体的展開を図っている。低学年では附小の森、中学年では学校周辺の附属町内会、高学年では釧路市全域をフィールドとして子どもの発達段階や教科教育との関連が有機的にはかられやすいようにしています。
附属釧路中学校	中学校では理科や技術、家庭科での単元レベルの取り扱いをはじめとして、各教科においても環境的な題材などを扱いながら問題意識をもたせるようにしています。

上に挙げた実践例のうち、附属札幌小学校での取り組みについて紹介します。

附属札幌小学校では、1年から6年生まで、教科および総合的な学習の時間を通じて体系的な環境教育プログラムが実践されてきました。

1・2年生は、生活科（「いきものとなかよし」）の中で、校庭や大学の北を流れる茨戸川に生息する生き物の観察と飼育を通じて、身近な生物の存在を実感します。3年生は、「緑道たんけんたい」と称する活動の中で、樹木の名前を調べ、樹木の四季の変化を観察することを通じて身近な自然を「知る」ことを学びます。4年生は、環境と生き物のつながりや生き物どうし

のつながりを、茨戸川での一年を通じた活動の中で学びます。この活動には、学部学生が子どもの活動を補助するために参加しています。5年生は、道南の黒松内町に宿泊しながら、「黒松内ぶなの森自然学校」との連携プログラムのもと、水を中心とした物質循環と生き物のつながりについて体験的に学習します。6年生は、自然と人との関わりや地球環境へと関心の幅を広げていきます。

さらに、学部学生の実践的な力を養成するために、大学の教員、学生が附属学校での環境教育に関わっていくことが必要です。

### (3) 地域貢献(社会貢献)

#### ・教員の社会貢献

本学には、様々な専門分野の教員がおり、その研究活動は多岐にわたる。これら教員の研究活動から、環境保全および環境教育に関わる教員の社会貢献の実態を示します。

#### 【本学教員が委嘱を受けている各種審議会などの一覧】

##### 各種審議会委員

キャンパス	教員名	職名	名称(具体的な内容等、参考となる事項)	委嘱機関	期間
札幌校	森田 みゆき	教授	札幌市緑の審議会委員 (札幌市の緑化を推進し、緑豊かな都市づくりを行うための審議会)	札幌市	17.3.20 ~ 19.3.19
	大津 和子	教授	財団法人北海道環境財団理事 (道民及び事業者の環境保全活動の促進のためその支援を行う法人)	財団法人北海道環境財団	17.4.1 ~ 19.3.31
	並川 寛司	助教授	河川水辺の国勢調査アドバイザー	石狩川開発建設部	H16 ~
函館校	住田 和子	教授	北海道環境審議会委員 (環境の保全に関する基本的事項を調査審議する委員会)	北海道環境生活部	16.7.13 ~ 18.7.12
	中村 秀夫	助教授	函館市環境審議会委員 (環境の保全及び創造に関する基本的事項を調査審議する委員会)	函館市環境部	16.4.1 ~ 17.11.30
	長谷 昭	教授	函館市環境審議会委員 (環境の保全及び創造に関する基本的事項を調査審議する委員会)	函館市環境部	16.4.1 ~ 17.11.30
			函館市緑化審議会委員 (緑化の基本計画、その他推進に関する事項を審議する委員会)	函館市土木部	16.12.24 ~ 18.12.23
		「函館市緑のパートナー会議」委員 (「函館市緑の基本計画」推進にあたり、意見及び提言を行う会議)	函館市土木部	15.10.20 ~ 17.10.19	
旭川校	芝木 邦也	教授	旭川市を緑にする会副会長 (育樹事業などのボランティア活動による緑化の推進、緑の啓発活動を行う)	旭川市を緑にする会	17.4.25 ~ 19.3.31

	西川 恒彦	教授	第7回自然環境保全基礎調査植生調査ブロック調査会議委員 (1/25,000の地形図を基図に全国の現存植生図の整備を進める)	環境省自然環境局 生物多様性センター	17.9.1 ~ 18.3.15
			希少野生動植物指定候補種検討委員会委員 (北海道に生息・生育する希少な野生動植物の保護を進める)	北海道環境生活部	17.8.23 ~ 18.3.31
釧路校	蛭田 眞一	教授	釧路国際ウエットランドセンター技術委員会技術委員 (「地域におけるラムサール湿地の役割～教育・普及啓発の実践」に関わる調査・研究)	釧路国際ウエットランドセンター(釧路市)	17.3.7 ~ 19.3.19
			浜中町環境基礎調査調査員 (浜中町内の希少種に該当するニホンザリガニの分布の実態や生態調査及びそこから見た浜中町の自然環境の評価)	浜中町	17.7.1 ~ 18.3.31
	生方 秀紀	教授	東北北海道地区自然保護事務所調査研究員 (平成17年度地球環境保全等試験研究「自然と人の共生のための湿原生態系保全および湿原から農用地までの総合的管理手法の確立に関する研究」に係る調査研究員)	環境省自然環境局東 北海道地区自然保護 事務所	17.7.25 ~ 18.3.31
	神田 房行	教授	釧路市環境審議会委員 (環境基本計画,環境の保全及び創造に関する基本的事項の調査審議)	釧路市	17.11.30 ~ 19.11.29
北海道水循環専門委員会委員 (湖沼等の水質改善方策,硝酸窒素及び亜硝酸性窒素による地下水汚染の直接浄化手法に係る検討・助言)			北海道	17.6.24 ~ 18.3.31	
河川水辺の国勢調査『河川版・ダム湖版』スクリーニング委員会委員 (河川水辺の国勢調査における調査結果の検証等)			財団法人リバーフロン ト整備センター 財団法人ダム水源地 環境整備センター	17.6.10 ~ 18.3.31	
網走湖水環境改善施策検討委員会委員 (網走開発建設部が実施する網走湖水質保全施策について技術的検討・助言)			網走開発建設部	17.7.7 ~ 18.3.31	
	鈴木 輝明	教授	釧路市廃棄物減量等推進審議会委員 (釧路市における廃棄物の減量及び適正な処理に関する事項の審議)	釧路市	17.12.1 ~ 19.11.30



講演会等の講師

キャンパス	教員名	職名	名称(具体的な内容等、参考となる事項)	委嘱機関	期間
札幌校	城後 豊	教授	北海道立洞爺少年自然の家講師 (青少年自然体験活動指導者養成事業の「野外教育の概論」及び「青少年と野外教育」)	北海道立洞爺少年自然の家	17.8.18
			国立日高少年自然の家講師 (少年教育指導者研修 の地域自然を生かした自然体験活動プログラムによる「総合的な学習の時間」へのアプローチ)	国立日高少年自然の家	17.9.23 ~ 17.9.24
			環境教育リーダー研修基礎講座検討会委員 (環境省及び文部科学省主催の環境教育リーダー研修基礎講座開催のための検討委員会)	環境省北海道地区環境対策調査官事務所	17.10.1 ~ 18.3.31
			環境教育リーダー研修基礎講座講師 (東地区自然体験宿泊学習館(空知郡北村))	北海道教育委員会	18.1.11 ~ 18.1.12
	森田 みゆき	教授	北海道上川高等学校GLOBE講演会講師 (GLOBE活動～環境のための地球観測活動)	北海道上川高等学校	18.1.20
函館校	田中 邦明	助教授	クリーン渡島形成事業地域懇談会・講師 (地域住民、事業者、行政の協働による綺麗な街づくりの実現に向け様々な立場の方から意見・提言を聞く懇談会)	渡島支庁	17.9.4
釧路校	神田 房行	教授	動植物と気象の関連に関する講演講師 (フェノロジー(生物季節)と気象との関係について)	釧路地方気象台	18.3.8
岩見沢校	尾関 俊浩	助教授	新エネルギー講演会(太陽熱利用の普及啓発)	岩見沢太陽熱エネルギー活用検討会	17.11.18

他大学等の非常勤講師

キャンパス	教員名	職名	科目名(具体的な内容等、参考となる事項)	委嘱機関	期間		
札幌校	佐々木 胤則	教授	環境保健学	吉田学園保健看護専門学校	17.10.3 ~ 17.11.23		
			森田 みゆき	教授	衣環境論	藤女子大学	前期
			富田 勤	教授	衣環境学	北海道浅井学園大学短期大学部	後期
					衛生学実験	北海道浅井学園大学	後期
					学校薬剤師(学校環境衛生に関する業務)	立命館慶祥中学校高等学校	17.4.1 ~ 18.3.31
					衛生化学	北海道医薬専門学校	前期
					学校薬剤師(学校環境衛生に関する業務)	北海道札幌丘珠高等学校	17.4.1 ~ 18.3.31
公衆衛生学	札幌医療科学専門学校	後期					

その他

キャンパス	教員名	職名	科目名(具体的な内容等、参考となる事項)	委嘱機関	期間
釧路校	神田房行ほか7名 (環境教育研究編集委員会委員長)	教授ほか	北海道教育大学環境教育情報センターとして環境教育研究第8巻第1号(2005年3月発行)及び第8巻第2号(2005年10月発行)を発行し、環境教育に関する研究を広く周知した。	編集委員会: 神田房行, 蛭田真一, 三崎隆, 高嶋幸男, 諫山邦子, 池田保夫, 高橋忠一	
岩見沢校	芳賀 卓	教授	二風谷ダム自然環境調査アドバイザー (ダム及びダム周辺の環境調査についてアドバイスを行う)	室蘭開発建設部	17.5.23 ~ 18.3.31

## ・大会等の開催

### 「私たちの身のまわりの環境地図作品展」

本学生涯学習教育研究センターが中心となり組織している「環境地図教育研究会」では、環境地図の作品展を小学校、中学校、高等学校の児童生徒を対象に毎年開催し、昨年度第15回目となる作品展を開催しました。

この作品展では、作品の内容が「身のまわりの環境について自分で調査したこと、観察したこと、考えたことを地図にしたもの」で、毎年の指定されたテーマと自由なテーマとにより作品を募集し、優秀な作品には「日本地図センター理事長賞」をはじめ各賞の選出をしています。応募作品も日本だけではなくアジアやヨーロッパなど世界各国から出品されています。

また、昨年度の作品展から文部科学省「学びんピック」の認定大会として開催しています。



## ・高校生への出前講義

本学では、環境教育に関わる出前講義を行って、北海道の環境教育の推進に貢献しています。

札幌キャンパスでは、地域広報委員会と地域環境教育課程が連携して、2003年度から上川高校のグローブ事業の一環として出前講義を行っています。

また、並川研究室では、「環境生物学実習」の一環で上川高校で地域の植生調査の指導を行い、環境教育を通じた地域貢献を行いました。



## 7 学生の環境保全活動の状況

環境教育カリキュラムを通じて、学生の環境保全活動の推進と環境意識の啓発を図る。

### 教育活動を通じた環境保全活動（札幌校）

札幌校地域環境教育課程・環境社会学分野・倫理学研究室の学生は、2002年から2004年にかけて、「学内におけるゴミ分別状況の調査とその改善への取り組み」と題し、大学事務局と連携しながら、学内のゴミ分別の徹底に取り組んできました。その中で、学内におけるゴミ箱の設置の仕方などについて提言を行い、分別率の向上へ寄与しました。

また、地域環境教育課程が中心となり、連休前後に「キャンパスクリーン作戦」と称し、キャンパス内の清掃活動を行ってきました。この活動は、今後も継続されます。

学生が自主的に行う環境活動について、北海道教育大学では積極的に支援しています。

釧路校には、「自然環境サークル」、札幌校には「エコ・プロジェクト」という学内環境活動サークルがあります。

「自然環境サークル」は年間を通じて、湿原を中心とした自然再生、保護のボランティア参加などの活動を行っています。

「エコプロジェクト」は年間を通じて、幼稚園、小学校での環境教育の協力、大学内外の環境事業の開催や参加活動を行っています。毎年5月上旬には、構内のゴミ一掃のキャンパスクリーン作戦のポスター作りや清掃活動を行っています。大学祭にはリサイクルの広報活動として、「紙すき体験教室」を実施し、小学生などが参加しました。

写真は「自然環境サークル」が2月に行った「わくわくゆきんこ探検隊」の一コマです。



【各キャンパスの環境関連団体】

学部等名	団体名	活動内容
札幌校	エコ・プロジェクト	環境問題と環境教育に興味・関心のある人同士と情報・意見交換。大学内外の環境事業の開催・参加。幼稚園・小学校での環境教育（自然体験，ネイチャーゲーム）の協力など。19名。
釧路校	自然環境サークル	会の目的「さまざまな環境問題に対して，正しい理解や知識を持ち，問題の改善に向け取り組む。」活動は毎週ミーティングを行う。自然再生活動，保護活動，調査活動，シンポジウムなどに参加するなど。

## ま と め

北海道教育大学は平成 10 年度から地域環境教育課程を発足し、環境教育カリキュラムの充実を図ってきました。さらに、平成 18 年度、全学的な改組に伴い、人間地域科学課程に環境科学専攻（函館校）と教員養成課程に総合学習開発専攻環境教育グループ（札幌校）という新たなカリキュラムで、環境科学分野の専門家や環境教育を担う人材の育成を行うことになりました。

このように北海道教育大学では、大学の環境マネジメントだけではなく、教育という視点で社会への貢献を考えております。

本年度は、環境方針、環境報告書の初年度で、まず、大学全体の環境保全の実態をまとめました。その中で、附属学校を含めた全学的な取り組みを掌握でき、また次年度への環境保全の方向性を明確にする足がかりができました。

平成 18 年 9 月

環境保全推進本部

本部長	理事	佐々木	茂
委員		森田	みゆき
委員		佐々木	胤 則
委員		並川	寛 司
委員		田中	邦 明

〔表紙の写真：北海道の自然と一体になったキャンパス。 - 本学札幌校の冬の景色 - 〕

